

「(農)ファームよしだ」を核にタマネギの拠点産地づくり

1. 農事組合法人ファームよしだ(安来市)

【設立】H31年2月設立

農業の担い手が減る中、地域の農地荒廃への危機感から「吉田地区農業競争力強化農地整備事業(H29～R5年度予定)」を契機に法人を設立。

【組合員】89人

【経営面積】37.8ha(R4年度作付可能面積)

【経営品目】水稲37.5ha(R5年計画:44.3ha)

タマネギ・キャベツ3.3ha(R4年作付)

2. 取組の経過及び概要

基盤整備後の早期経営安定のためには、高収益作物の導入が必要であることから、水田園芸に着目。

R2年からタマネギ・キャベツを試作する中で、**作業の機械化が可能なタマネギを園芸品目の柱に決定。**

水田園芸の拠点産地づくりを目指して、その核となる役割を果たすため、R3・4年度の「産地生産基盤パワーアップ事業」・「水田園芸拠点産地づくり事業」を活用して、各種機械を導入することで、**大規模機械化作業一貫体系を確立。**



オニオンハーベスタ



リアリフト



乗用移植機

導入年	導入機械
R3	オニオンハーベスタ
	ディガー
	リアリフト
	ハイクリブーム
	根切機
	肥料散布機
R4	フォークリフト
	乗用移植機
	マニユアスプレッター

3. 取組の成果

(1)タマネギの拠点産地づくりが進展

R2年に20aから始まったタマネギの面積は、R5年にはその15倍の3haに拡大。**R6年には10haを目指す。**

また、(農)ファームよしだの栽培が契機となり、周辺組織にも波及効果があり、タマネギ栽培が拡大中。

栽培面積の増加(収穫年)(単位:ha)

年度	R2	R3	R4	R5	R6 (目標)
安来東地域					
ファームよしだ	0.2	0.3	1	3	10
その他	0.8	1.3	1.7	1.7	1.7
合計	1	1.6	2.7	4.7	11.7

(2)共同育苗体制の構築に向けて

拠点産地づくりのためには、共同育苗体制の構築が必要不可欠であることから、**育苗技術の習得と良質苗の安定供給を目的とした育苗委託管理**を実証中。



播種作業



育苗ベンチ作成

代表者から一言

タマネギは作業の機械化が可能で、支援制度がある今のうちがチャンスだと思いました。10haの栽培に向けて、組合員一丸となってチャレンジしていきたいです。

新田徹 代表理事組合長(64才)

4. 課題と今後の取組方向

- (1)タマネギ育苗の広域供給体制の確立による育苗コストの低減
- (2)近隣生産組織との連携による農作業受委託の仕組みづくり
- (3)適切な作物輪作体系の確立によるタマネギ定着促進